



普通作 新規需要米用専用品種の播種量について

農産課 佐伯



新規需要米用専用品種は、食用品種よりも粳種子が大きい品種が多く、食用品種と同じ播種量だと欠株の発生や直播きでの苗立ちの不足を生じることがあります。そのため、食用稲よりも多めに播種する品種が多くあります。品種の千粒重に応じて播種量を決めましょう。

表1

項目	粳千粒重 (g)	コシヒカリに 対する粒重比 (%)	200g	190g	180g	170g	160g	150g
(基準) コシヒカリ	24.7	100	8,090粒	7,690粒	7,280粒	6,880粒	6,470粒	(基準) 6,070粒
夢あおば	31.1	126	6,430粒	6,100粒	5,780粒	5,460粒	5,140粒	4,820粒
ミズホチカラ	26.9	109	7,430粒	7,060粒	6,690粒	6,310粒	5,940粒	5,570粒
モグモグあおば	35.8	145	5,580粒	5,300粒	5,020粒	4,740粒	4,460粒	4,180粒
タチアオバ	28.0	113	7,140粒	6,780粒	6,420粒	6,070粒	5,710粒	5,350粒
ミナミユタカ	20.4	83	9,810粒	9,320粒	8,830粒	8,340粒	7,850粒	7,360粒

(一社)日本草地畜産種子協会生産種子平均抜粋

表1から算出すると、コシヒカリを基準(一箱当たり乾粳150g播き)とすると「夢あおば」は1.26倍(約190g)、「ミズホチカラ」は1.09倍(約160g)、「モグモグあおば」は1.45倍(約220g)、「タチアオバ」は1.13倍(約170g)、「ミナミユタカ」は0.83倍(約125g)の播種量が必要です。



果樹

11月の果樹園管理

営農指導課 村上



防除・施肥管理・栽培管理

品 目	栽培管理	農薬・肥料・資材名	倍数・施肥量	対象病害虫・目的
みかん	・着果が多かった園地 樹勢が落ちているため、窒素主体の葉面散布を実施。 ・着果が少なかった園地 次年度は着果過多が予想されるため、収穫直後～収穫1ヶ月までにジベレリン(25～50ppm)の散布を行い花芽分化を抑制する。	ペフラン液剤25	2,000倍	貯蔵病害
		ベンレート水和剤	4,000倍	貯蔵病害
		クレント ※年2回使用	100倍	浮皮軽減
デコボン	着色が進むと浮皮が発生しやすくなります。以下を参考にしてください。 ・秋雨を入れないようにする。 ・風通しを良くし、ハウス内を過湿状態にしない。 ・昼間、気温が20度以上になるときは谷間を開ける。	ナティーボフロアブル	1,500倍	黒点病
		リンクエース	1,000倍	光合成促進
梨	・健全樹：葉が黄葉し、一斉に落葉する。 ・根腐れ、肥料不足等：黄葉以前から早期に落葉する。 ・窒素過剰：いつまでも葉が残り、だらだらと落葉する。	キノンドーフロアブル	1,000倍	黒星病
きんかん	ビニール被覆後は、高温にならないように換気を充分に行う。 25mm以下の果実は、摘果する。(最終摘果)	テルスターフロアブル	3,000倍	カメムシ類
栗	樹と樹の間隔が狭く、園内全体が影をうつような密植園での結果部位は日の当たる樹冠上部のみとなって収量は減少し、樹の弱体化を招きます。 縮・間伐を行い樹の間隔が2m程開くようにしましょう。			
桃・李	整枝・剪定が不十分な場合、主枝や垂主枝の先端が弱まったり、側枝の更新が遅れてはげあがるなど生産性が大きく低下します。			

落葉果樹の改植・植え付け

植え付けは、12月下旬頃の植え付けと2月上旬頃の植え付けがあります。冬の冷え込みが激しいところでは2月上旬の植え付けを行います。12月下旬植え付けの方が根と土壌がよくなじみ初期生育が良い傾向にあります。

植穴は、深さ50cm程度を掘り起し完熟堆肥や苦土石灰、ようりん等を土とよく混ぜ合わせて準備しておきます。排水不良園では、植え付け前に暗きよなどの排水対策を行います。

苗木は、根の傷んだ部分を取り除き、地上部は将来の樹形に合わせ、切り返しを行います。

植え付け後は、かん水を行うとともに、根を動かさないように支柱を添えて固定してください。



園芸

イチゴ・アールスメロンの栽培管理

営農指導課 松本



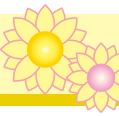
イチゴの栽培管理

- ・マルチの被覆前に追肥をチッソ成分で3～5kg/10aを施肥、被覆後は黄化葉や枯葉は除去してください。(病害の発生源をなくす)
- ・天井フィルムの被覆については、10月末又は花の出蕾を目安にビニール被覆を行い、11月以降はいつでも加温が出来るように、暖房機の点検・準備を行ってください。
- ・病害虫において、病気は被覆後にうどんこ病、曇天時に灰色かび病、害虫はハダニ・ハスモンヨトウに注意してください。

症状		ガク 枯 れ	症状		ア ミ 果
原因		・チッソ過多、水分過多 ・なり疲れからくる草勢の低下	原因		・カルシウム欠乏 (根量の減少による吸収量の低下)
対策		・摘果(実を取る) ・摘果房(房ごと取る)	対策		・カルシウム肥料(トーシンCa2号等)の施用 ・発根剤(美果多等)の施用

アールスメロンの栽培管理

- ・定植から交配までの日数として、30日を確保し十分な樹作りを行ってください。(果実の玉肥大やネットの盛り等に影響)
草勢が弱い場合は、吊り上げ前後に灌水を行い、着果節位を上げたり、昼夜温の温度較差をつけるなどを行ってください。草勢が強い場合は、交配前の灌水を控え、最低夜温を高めに管理してください。
- ・交配に関しては、多湿条件にならないように換気や暖房機を活用し、日中は26℃以上は確保してください。(ミツバチは3～4日前に入れる)
- ・玉はげ期(硬化期)～縦ネット初期は玉アザが発生しやすくなります。極端な温度・湿度の変化を避けて管理してください。温度は最低18℃を確保し、自動開閉機によって急に冷気を玉に当てないために、手動による2段換気を行ってください。
- ・ネット期に関しては、毎日ネットが発生するように、午前中は温度・湿度を高めてください。*アークランド液剤の使用は営農指導員にご相談ください。
- ・ネット仕上げ期に関しては、1日1回乾燥させる管理を行い、ネットの盛りを良くするために玉ふきを行ってください。



花き

切花の栽培管理について

営農指導課 宮木



電 照 菊

年末電照菊では、消灯前後で花芽を形成させるために最も大切な時期です。ビニール被覆を早急に完了させ、温度管理は昼間20～25℃程度を目安に、夜間は15℃程度を確保し、スムーズに花芽分化を促進させてください。

再電照は、主に上位葉のボリュームアップ及び花弁数の増加を目的に行います。消灯後およそ12～15日頃より3～4日間(深夜3～4時間)の再電照を行います。品種・温度管理により花芽形成が異なりますので確実に消灯後12日目までに花芽検鏡の持ち込みをお願いします。時期を過ぎると再電照の効果が低下します。

尚、今年度の年末菊の予約相対は12月16日(土)～20日(水)出荷が一番のピークになると思われます。その期間に出荷が合うように消灯及び再電照等の調整をお願いします。状況により再々電照の検討もお願いします。

また、白サビ病ですが、今年度につきましても発生が懸念されますので、温湿度・水分管理等には十分注意され、早めの硫黄蒸散器(スーパースモークーキー等)準備や薬剤予防をお願いします。

洋 花 類

ハウス内加温が必要な時期となりました。品目により生育適温は多少異なりますが、ハウス内の二重張り、加温準備を早めに行ってください。また、ハウス内の湿度が高くなると、灰色カビ等の病気が発生しやすくなりますので換気を十分にを行い、防除をお願いします。



畜産

冬場の子牛飼養管理

畜産課 新崎



暑い夏が過ぎ、肌寒い季節となりました。子牛にとって、冬季は下痢などの消化器病や肺炎などの呼吸器病が発生しやすい時期です。子牛の状態に注意して冬場の飼養管理に努めましょう。

① 飼 養 環 境

冬場の飼育環境で問題となるのは、締め切られた状態による換気不足です。換気不足による牛舎では粉塵、糞尿からのアンモニア、密飼による二酸化炭素の高濃度化などにより病原体の侵入・増殖を容易にし、肺炎の原因となります。適度な換気により新鮮な空気を供給することが肺炎のリスク軽減になります。但し、直接寒風が当たるなど過剰な換気は逆に子牛にストレスとなるため、短い期間で数回に分けて行う必要があります。

② 防 寒 対 策

牛は基本的に寒さには強い動物ですが、子牛はとくに出生直後、体温がすぐに低下してしまいます。乾燥した敷料を十分に敷き、必要に応じて保温ランプや電気マット、ネックウォーマーなどの暖房器具を取り付けてください。

③ 疾 病 対 策

子牛の下痢は、その後の発育に大きな影響を及ぼします。出生時の子牛は病原体に対しての免疫が未発達のため、出生後4時間以内に初乳を十分飲ませる必要があります。ホルスタインの場合は搾乳を行いますので初乳の給与確認が容易ですが、黒毛和種は自然哺乳の場合もあるためどれだけ摂取したか把握が難しい場合もあります。母牛の泌乳量が少ない場合や吸入を拒む場合は別途で初乳を給与しましょう。

また、便の確認は必ず行い早期発見に努めることはもちろんのこと、水下痢を発見したときは必要に応じ獣医師等の診断を受け経口補液剤などの投与により早期治療に努めましょう。病原体は必ず存在するため消毒等での予防も有効ですが、まずは乾燥した敷材で保温を確保し適切な飼養環境の改善に努めましょう。